

第三章 中退訓練生群の個性検査上の特徴について

はじめに

訓練生の **personal traits** を把握する手段として、次の四つの心理検査をもちいた。⁷⁾

- (1) 藤原式職業興味検査
- (2) 矢田部ギルフォード性格検査
- (3) 田中B全式知能検査
- (4) 労働省編職業適性検査(第二)である。

各検査ごとの仮説は下記の通りである

(1) 職業興味では、D・E・スーパーも述べているごとく、「その職業にとどまったり、やめたりする問題と深い関係をもっている」と考える。ただし、職業訓練は職業そのものの遂行ではないから、職業興味はあっても学習方法等に興味がなければ中退する場合もありうる。

本検査では「機械的領域」(mechanical)に30パーセント以下低い得点を示す訓練生は訓練職種に興味が高いのであるから、中退する確率も高いであろうと仮定する。^{8) 9) 10)}

(2) 性格では、集団生活への適応がうまくいかない場合、例えば他の訓練生あるいは指導員との人間的な調和がたもたれないとき中退すると考える。

つまり、本検査からは、E型性格(不安定不適応消極型)が中退しやすいのではないかと仮定する。

(3) 知能では、知能が低い場合、集団学習方式の授業についていけず、中退する場合もあるし、逆に知能が集団平均値より極度に高い場合も授業に飽きを感じるために中退するとも考える。

7) ボロー：アジア地域職業指導会議報告書1967(日本職業指導協会)

P75.「テストは、ガイダンスを要するさまざまな問題 - たとえば、読書困難の診断、学習習慣の分析、退学のおそれのある者の早期発見など - の補助手段として使用された。」

8) E・K・Strong：

Vocational Interests of Men and Women

(Stanford University press) 1964.

9) 藤原喜悦：

職業興味テストの手引

1970.

(金子書房)

10) 児玉省：

児玉ストロング職業興味検査法

S36

(日本文化科学社)

本検査では知能偏差値SS3.4以下は集団学習に苦勞を感じ、中退する可能性が大きいと考える。
 (なお職業適性については、今回は考察をおこなわないこととする。)

さらに、以上の三点からみることとして、それぞれ関連しているので、個性プロフィールの総合的判定から、中退訓練生の **personal traits** を把握することにする。

調査対象総高訓は全国より選定した15総高訓で、45年10月に各検査を実施している。

調査対象訓練生総数は1,494名であり、最終的に47年3月までの訓練期間に中退した訓練生のうち、129名の個性検査結果を分析対象とする。

第1節 中退訓練生群の職業興味

中退訓練生群と修了訓練生群との職業興味プロフィールを比較したのが、第32図である。

プロフィール上特に注意する点は「機械的領域」であるが、修了訓練生群は70パーセントで高い。それに対して中退訓練生群は50パーセントで平均的である。

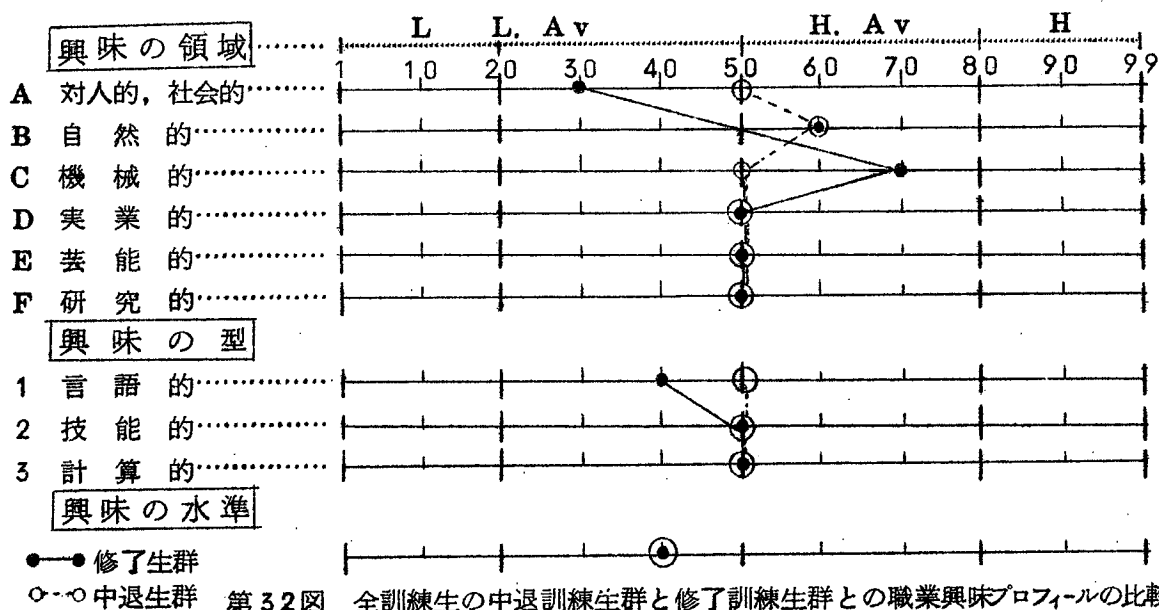
また、差異のある点は、「对人的・社会的領域」で修了訓練生群は30パーセントで低いのに対して、中退訓練生群は50パーセントで平均的である。

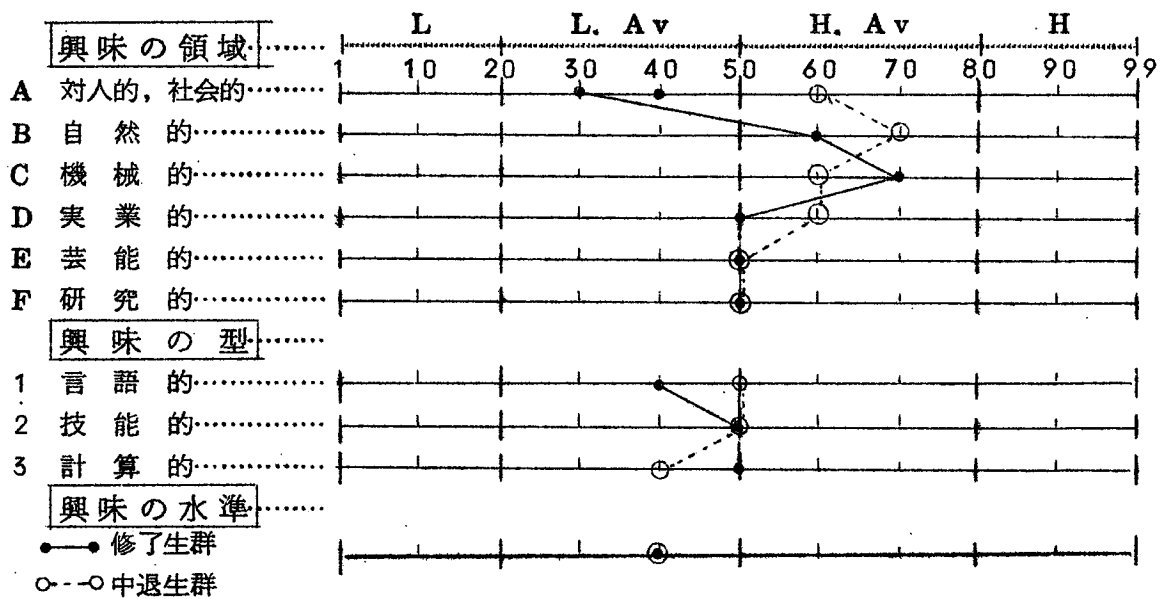
同様に職業興味プロフィールを中卒者と高卒者とに分けて、中退訓練生と修了訓練生とを比較したのが第33図、および第34図である。

中卒者の職業興味プロフィールでの「機械的領域」をみると、中退訓練生群は60パーセントであるのに対して、修了訓練生群は70パーセントと高い値を示している。

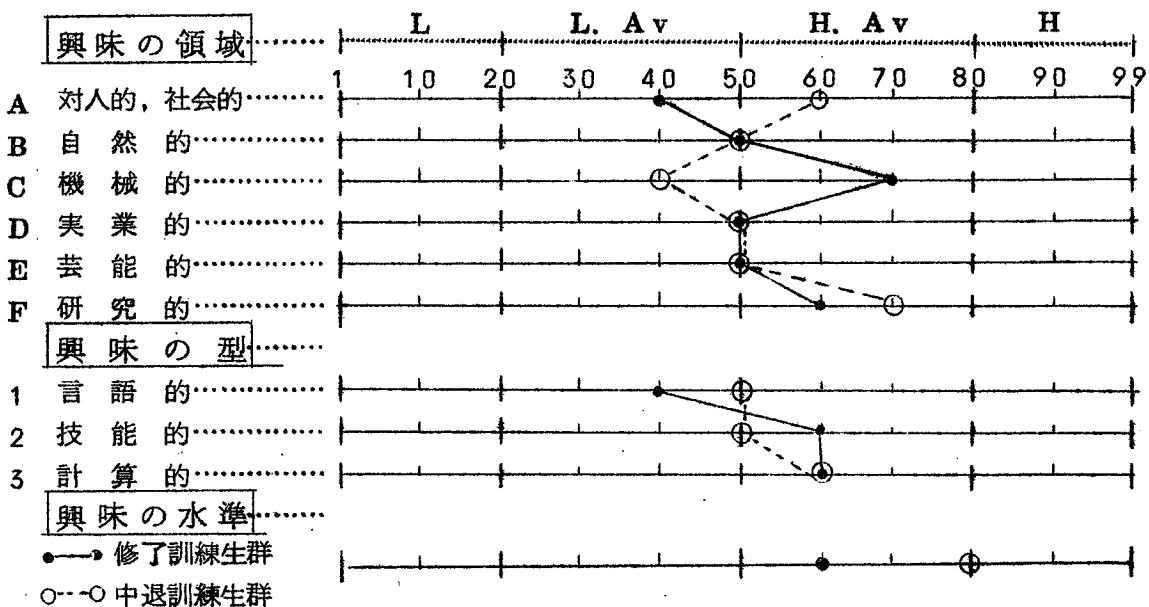
さらに、高卒者の職業興味プロフィールでの「機械的領域」をみると、中退訓練生群は40パーセントと低い値を示すのに対して修了訓練生群は70パーセントと高い値である。

このように、中退訓練生群は職業興味プロフィールの「機械的領域」で修了訓練生群より低い値を示している。また、この傾向は高卒者において顕著であることがわかる。





第 33 図 中卒者の中退訓練生群と修了訓練生群との職業興味プロフィールの比較



第 34 図 高卒者の中退訓練生群と修了訓練生群との職業興味プロフィールの比較

次に、職業興味「機械的領域」のパーセンタイル段階ごとの人数分布を示したのが、第 35 図と 36 図である。(第 35 図は校別の中卒訓練生の人数分布、第 36 図は校別の高卒訓練生の人数分布を示す。)

さらに、中退訓練生群と全訓練生群と職業興味「機械的領域」と段階ごとの分布を示したのが、第 37 表と第 38 表である。

このように、30パーセンタイル以下の職業訓練職種に興味をしめさない者は、中退訓練生群で 21.0%、全訓練生群では 13.9% である。逆に、90パーセンタイル以上の訓練職種に興味の高い者は、中退訓練生群で 25.0%、全訓練生群で 34.3% となっている。

校別中退者の職業興味機械的領域の人数分布
(中卒訓練生)

校	段階										30per 以下	40per 以下	
	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90			99
19				3		1	1		1	1		3	3
16		2	1		1	1			1	2		3	4
15				1		1	1				1	1	1
07			2	1	4	3	2	1	2	2	1	3	7
06					3		1	1	2	1	1		3
01				1					1	2		1	1
02			1				2		2	1	1	1	1
03				2	3			1	1	2	1	2	5
04					2				1		1		2
08				2	1	1	1		1	1		2	3
09			2	1	1		1	2	1	4		3	4
14				1			1					1	1
17			1		1	1	1			1		1	2
18													
20										1			
total	2	7	12	16		8	12	5	13	19	6	21	37

第 35 図

校別高卒中退者の職業興味機械的領域の
人数分布

校	段階										30per 以下		
	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90		99	
19					1	1							1
16										1			
15											1		
07													
06									1	1			1
01									3				3
02													
03										1	1		1
04													
08													
09													
14													
17										1	1		2
18											2		1
20										1	1	2	4
total	3	3	3	3	6	1	3	1	2	4	1	9	9

第 36 図

第 37 表

中卒中退者と全訓練生との職業興味機械的領域の%分布の比較

(%)

項目	段階											
	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99	
中退者	0	2.0	7.0	12.0	16.0	8.0	12.0	5.0	13.0	19.0	6.0	
全体	0.1	1.6	3.7	8.5	8.7	6.0	15.5	7.1	14.5	21.6	12.7	

第 38 表 機械的領域に興味の低い者の両群比較

(%)

項目	段階		
	30per以下	40per以下	(90per以上)
中退者	21.0	37.0	(25.0)
全体	13.9	22.6	(34.3)

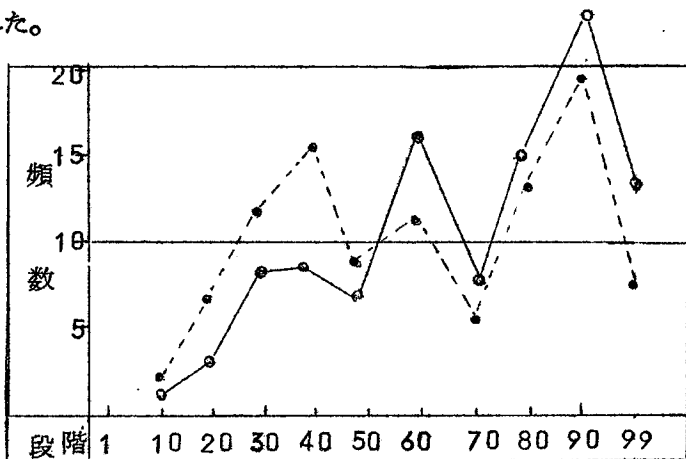
さらに、この点を詳細にみるために、第37表を図示したのが第39図である。

以上のことから、中退訓練生群は全訓練生群に対比して、職業興味検査の「機械的領域」で低い値を示す傾向がみられる。

別の角度から、この「機械的領域」について検討したのが第40表、第41図である。

つまり、「機械的領域」の各パーセンタイル段階ごとの、全訓練生数に対する中退者数を算出した。職業興味「機械的領域」の高くなるにつれて、中退率は減っている傾向がわかる。

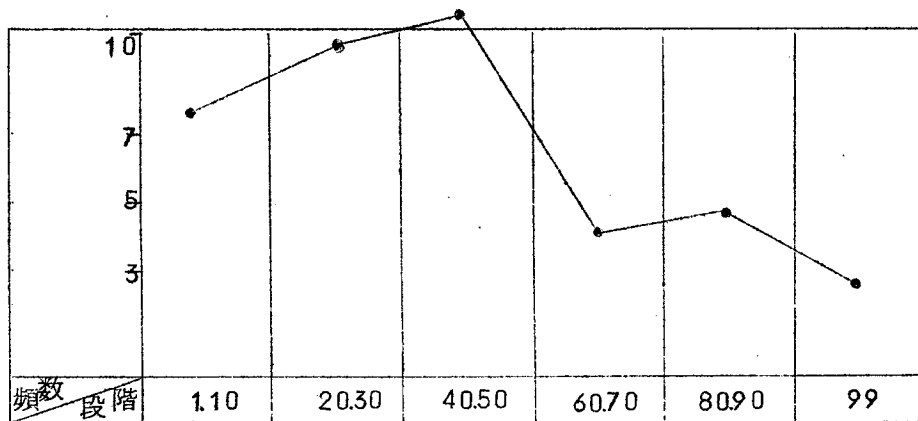
このように職業訓練職種に対する興味が高い者が、低い者より中退する率は小さいことが証明された。



第39図 職業興味「機械的領域」のパーセンタイル段階ごとの中退者群と全訓練生群との分布比較 --- 中退群 — 全訓練生群

第40表 職業興味分布からみた中退率（「機械的領域」）

項目 \ 段階	1 10	20 30	40 50	60 70	80 90	99
A 中退者数	2	19	24	17	32	6
B 在籍者数	27	195	230	360	576	202
A/B 中退率	7.4	9.7	10.4	4.7	5.5	2.9



第41図 職業興味「機械的領域」段階ごとの、中退率

第 2 節 中退訓練生群の性格

矢田部ギルフォード性格検査では性格型を次の 5 つに区分している。

<A類 (平均型)>これは全くすべての性格特性について平均的な状態を示す人で、万事につけて調和的適応的なタイプであるが、積極的にこれとって診断をくだしにくいタイプである。

<B類 (不安定不適応積極型)>

B型は情緒不安定、社会的不適応、活動的、外向的な人で、パーソナリティの不均衡が外へあらわれやすい人で、反社会的行動に出やすく、環境素質面の不利な点と結合すると犯罪的傾向が強くなる。

<C類 (安定消極型)>

この型の人はいわゆるおとなしい消極的な安定した、もの静かな人であるが、活動性がなく、内向的である点注意を要する。

<D類 (安定適応積極型)>

この型の人是最も理想的な人格の持主で、情緒的にも安定し、社会的適応もよく、活動的で対人関係もうまくいくタイプであり、学校でも問題は少ない。

<E類 (不安定不適応消極型)>

情緒不安定、社会的不適応、非活動的、内向的で、ノイローゼ傾向の強い人である。学校でも問題児である。

この五つの性格類型の妥当性については今後検討する必要があるが、とりあえず、中退訓練生群はB型、つまり情緒不安定社会的不適応積極型、あるいはE型、つまり情緒不安定社会的不適応消極型に関連すると仮定する。

まず、全般的な傾向をみるために、性格プロフィールを描いたのが第42図である。

このように中退訓練生群と修了訓練生群とでは、ほとんど同様の性格プロフィールである。

さらに、中卒者と高卒者に分けて、両群を比較したのが第43図、第44図であるが、ここでも両群の差異は認められない。

以上のことから、平均的に分析すれば、中退訓練生群と修了訓練生群との間には性格上の差異はないといえる。

つぎに、中退訓練生の性格検査結果を集計し、訓練校別に表示したのが、第45表および第46表である。

第46表にみるように、A型18名、B型35名、C型15名、D型18名という頻度分布をしている。

さらに、中退訓練生群と全訓練生群との性格類型の分布を比較したのが、第47表、第48表である。第48表をわかりやすくするために第49図を作成した。

このように、中退訓練生群はB型が最も多く、36.4%、つぎにA型とD型でともに18.8%、C型が15.6%、そしてE型は10.4%である。

それに対して、全訓練生群は、A型が最も高く、28.7%、次にB型の22.4%、E型は18.6%、D型が16.9%、C型は13.4%の順になっている。

この結果から、中退する訓練生にはB型性格の者が多いといえる。しかし、E型は中退率は最も低く中退に直接的な結びつきをもたない。

この点、つまりB型性格が中退に結びつくかを詳細にみるために、性格類型ごとに全訓練生数に対する中退者数の比率を算出したのが第50表で、それを図示したのが第51図である。

このように、全訓練生数1614名のうち、B型性格は362名であったが、そのうち中退した訓練生は35名であり、B型の中退比率は、9.6%となる。

逆に、E型性格は300名であったが、そのうち中退した訓練生は10名で、E型の中退比率は、3.3%と少ないことがわかる。

以上のことから、矢田部ゴルフ・ード性格検査におけるB型、つまり不安定不適應積極型の訓練生がその他の性格型の訓練生に比較して中退する比率が大きいといえる。

ただし、このB型の訓練生が中退する可能性があるると直接的に結びつけて解釈することはできない。

中退者性格類型

校 類 型	19	16	15	07	06	01	02	03	04	08	09	14	17	20	total
A	A			1		1					1				3
	A'			2	1		1	1		1					6
	A''				2		1	1	1		1	2	1		9
B	B		1		2	2		1	3			2			11
	B'		1		2	3	1		1	2	1	3		1	15
	AB	1	1		3		1				1			1	9
C	C	2			1			1							4
	C'			1				1			1	1			4
	AC	1			1	1			1	1	1	1			7
D	D		2		2	1		2	1			1			9
	D'		2			1								1	4
	AD	1	1		1					1				1	5
E	E				1	1			1		1				4
	E'	2							1						3
	AE		1						1					1	3

第45図

第 46 図

中退者性格類型

型	19	16	15	07	06	01	02	03	04	08	09	14	17	20			total
A	0	0	2	4	0	2	2	2	0	2	3	1	0	0			18
B	1	3	0	7	5	2	1	4	2	2	5	0	2	1			35
C	3	0	1	2	1	0	2	1	1	2	2	0	0	0			15
D	1	5	0	3	2	0	2	1	1	0	1	0	2	0			18
E	2	1	0	1	1	0	0	3	0	1	0	0	1	0			10

第 47 表 中退者と在籍者全体との性格類型比較

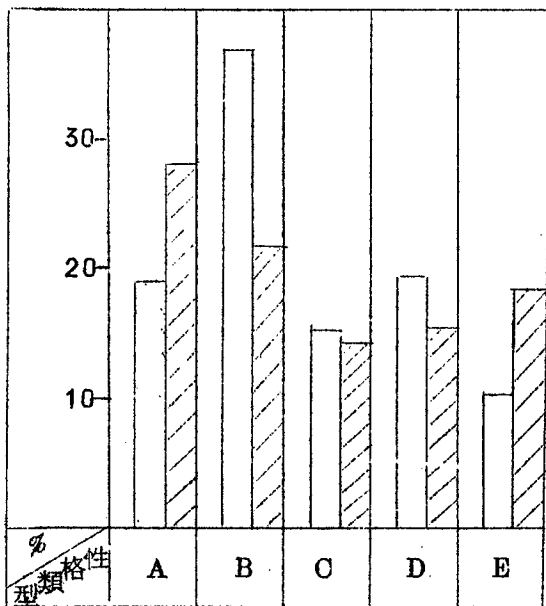
型	項目	45年中退者 (%)	在籍者全体 (%)
A	A	3.1	5.0
	A'	6.2	8.2
	A''	9.3	15.5
B	B	11.4	5.3
	B'	15.6	11.5
	AB	9.3	5.4
C	C	4.1	5.0
	C'	4.1	4.1
	AC	7.2	4.5
D	D	9.3	3.6
	D'	4.1	15.1
	AD	5.2	3.5
E	E	4.1	5.0
	E'	3.1	9.1
	AE	3.1	4.5

第 48 表 中退者と在籍者全体との性格類型比較 (%)

型	項目	中退者群 (%)	在籍者全体 (%)	修了者群 (%)
A		18.8	28.7	29.3
B		36.4	22.4	21.5
C		15.6	13.4	13.2
D		18.8	16.9	16.7
E		10.4	18.6	19.1

第 50 表 性格類型からみた中退率

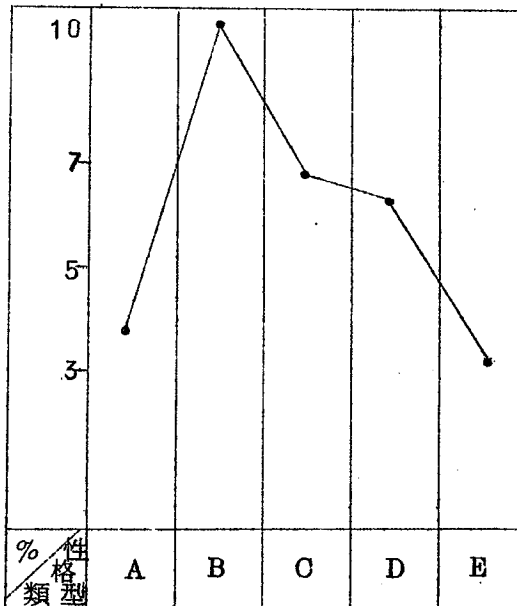
項目	型	A	B	C	D	E
A中退者数		18	35	15	18	10
B在籍者数		463	362	216	273	300
A/B 中退率		3.8	9.6	6.9	6.5	3.3



第 49 図 性格類型ごとの分布

(中退訓練生群と全訓練生群との比較)

□ 中退群 ▨ 全訓練生群



第 51 図 性格類型ごとの中退比率

第 3 節 中退訓練生群の知能

知能偏差値がクラスの知能平均値より極度にかけはなれていると、集団学習方式の場合、学習進度についていけなくなる可能性が多いと思われる。

知能偏差値において中退訓練生群と全訓練生群との間にどれほどの差異があるのか、この点を検討したのが、第 5 2 表である。

つまり、中卒者において中退訓練生群は $SS 46.95$ 、全訓練生群は $SS 47.0$ であり、高卒者においては中退訓練生群は $SS 53.07$ 、全訓練生群は $SS 53.0$ となり、知能偏差値を平均値でみた場合両群には差異は認められない。

つぎに、知能の傾向を訓練校別に知能偏差値の段階ごとの分布をみたのが、第 5 3 図（中卒訓練生）と第 5 4 図（高卒訓練生）である。

中卒者の中退訓練生は 103 名であったが、そのうち知能偏差値が $SS 34$ 以下の訓練生は 9 名である。注目する点はこの人々が「07」校、「01」校、「06」校、「02」校の 4 校に集中しており、その他の 11 校には知能偏差値 $SS 34$ 以下の低下者で中退している訓練生がいないことである。つまり、訓練校によって知能の低い者が中退しやすい場合と知能が低くても修了している場合とがあると解釈できる。

さらに、知能偏差値の分布について、中退訓練生群と全訓練生群とを比較したのが第 5 5 表、第 5 6 表ならびに第 5 7 図、第 5 8 図である。

中卒者、高卒者ともに知能偏差値が低い方にかたよっている傾向はあるが、顕著な分布上の差異は認められない。

両群に本当に差異がないのか、念のために知能偏差値段階ごとの訓練生全体数に対する中退者数の比率を算出し、図示したのが、第 5 9 表および第 6 0 図である。

このようにみれば、知能偏差値の低い訓練生が知能偏差値の高い訓練生よりも中退する比率が若干高いといえる。

しかし、知能偏差値の低い訓練生がすべからく中退するというような見解は全くとれないと思われる。

第 52 表 中退者と全体との知能偏差値平均の比較

区分	中高	中卒訓練生	高卒訓練生
中退者		49.95	53.07
全体		47.0	53.0

校別中卒中退者の知能分布

校	段階	34以下	35-44	45-54	55-65	65-74	75以上
19			2	4	1		
16			1	5	3		
15			1	2	1		
07		2	4	8	4	1	
06		3	3	1	2		
01		1	1	1	1		
02		3		3	1		
03			4	6	1		
04			3		1		
08			3	3	1		
09			6	5	1		
14			1		1		
17			1	2	3		
18							
20				2			
		9	30	42	21	1	

第 53 図

校別高卒中退者の知能分布

校	段階	34以下	35-44	45-54	55-65	65-74	75以上
19				1	1		
16					1		
15			1				
07							
06				1	1		
01				3			
02					1		
03			1	1	1		
04							
08							
09							
14							
17					3	1	
18			2	4	1	1	
20					1		
			4	10	10	2	

第 54 図

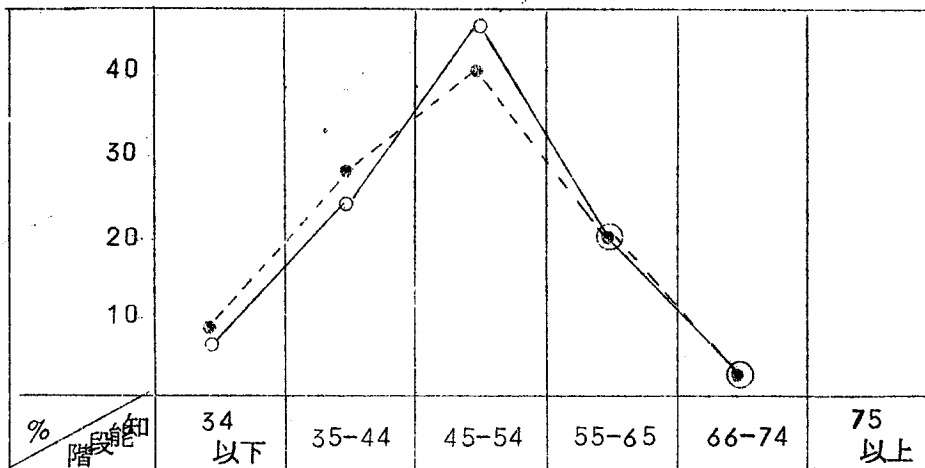
第 55 表 中卒中退者の知能分布 (在籍者全体との比較)

(%)

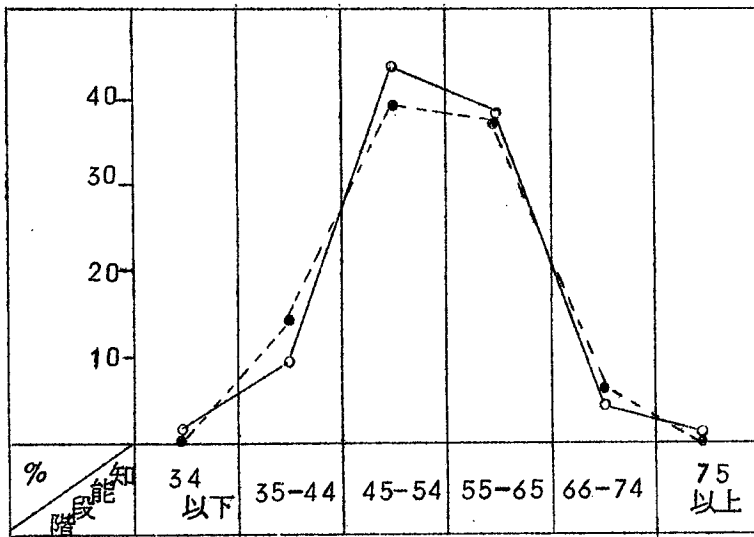
区分	段階	34以下	35-44	45-54	55-65	65-74	75以上
中退者		8.7	29.1	40.7	20.3	1.0	0
全体		6.2	24.2	47.6	20.2	1.3	0

第 56 表 高卒中退者の知能分布 (在籍者全体との比較)

区分	段階	34以下	35-44	45-54	55-65	65-74	75以上
中退者		0	15.3	38.5	38.5	7.7	0
全体		1.6	9.9	43.2	39.0	5.5	0.8



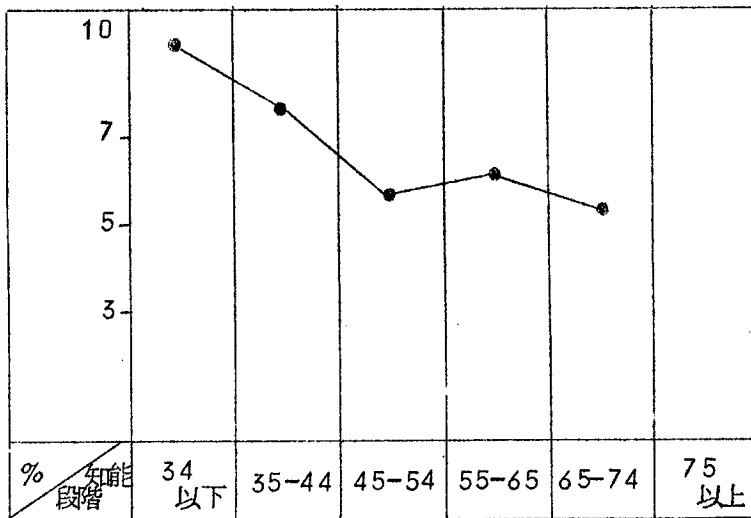
57 図 知能段階ごとの頻数分布の両群比較 (中卒訓練生) 中退群 ●●● 全訓練生群 ○○○



第 58 図 知能段階ごとの頻数分布の両群比較 (高卒訓練生) ●---● 中退群 ○---○ 全訓練生群

第 59 表 知能分布からみた中退率

区分 \ 段階	34以下	35-44	45-54	55-64	65-74	74以上
A 中退者数	9	30	42	21	1	0
B 在籍者数	101	393	772	335	21	0
A/B 中退率	8.9	7.6	5.4	6.2	4.7	-



第 60 図 知能偏差値ごとの中退比率

第 4 節 各検査の総合判定について

個人的特徴 (personal traits) のいずれか一つの特性がかけても、環境との作用により、中退がおこる可能性はある。

その意味で、職業興味、性格、知能の三つの特性から総合判定したのが、第61表である。

中退訓練生群で三つの特性のうちいずれかに問題をもっている者が49.6%であり、一方全訓練生群では31.0%が問題をもっているとチェックされた。また、昭和47年度千葉総訓在籍者についてみると、29.1%が問題ありとチェックされた。

このように総合的にみれば、中退訓練生群が、全訓練生群より、personal traits において問題点をもつ比率が大きいといえる。

しかし、このことが personal traits をとらえる心理検査による中退者予測の可能性に直接結びつくものではない。

むしろ、以上のような詳細な検討の結果、今回のような心理テスト・バッテリーから、訓練初期に中退者を予測するのはかなりむづかしいといった方がよいと思われる。

第 61 表 個性プロフィール総合判定からみた中退者

(%)

項 目	区 分	中 退 者	在籍者全体	47年千葉総訓生
A	職業興味機械的領域 30 per 以下	23.3	13.9	10.8
B	性 格 B. 型	36.4	22.4	14.2
C	知 能 34 以下	7.8	6.2	6.1
D	総 合 判 定	49.6	(31.0)	29.1

第 5 節 中退理由群ごとの職業興味、性格、知能のプロフィール比較

第二章において中退理由により、中退事例を 6 群に区別した。その 6 群の各区分ごとに各 personal traits を比較検討する。

まず、職業興味プロフィールについてみたのが第 62 図、および 63 図である。

このように、「機械的領域」において、第 IV 群と第 II 群とが低い値を示している。

これは中退訓練群のうちでも、特に、「進学による中退群」個性的な問題が主となる中退群は訓練職種に対する職業興味が低いことをしめしている。

つぎに、性格プロフィールについて 6 群を比較したのが第 64 図および第 65 図である。

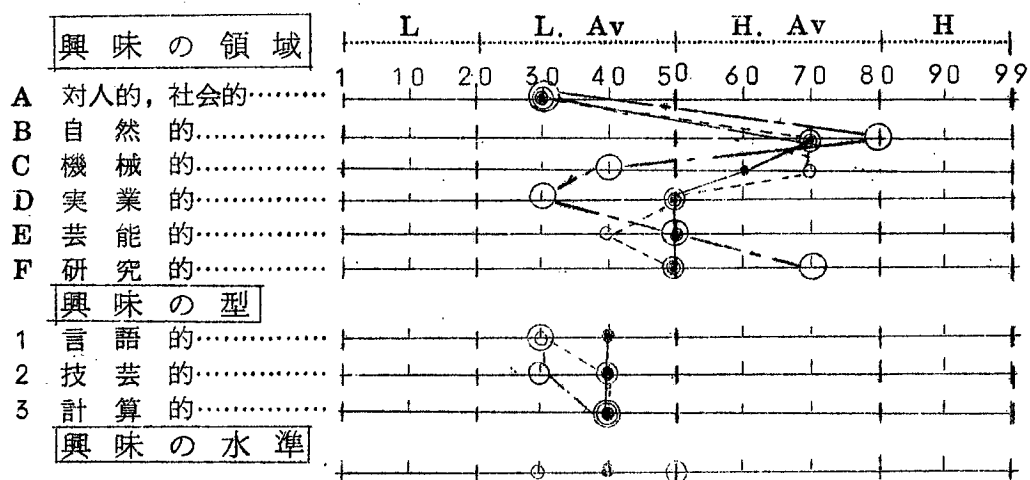
第 III 群と第 IV 群に若干の差異がみられるが、問題視できるほどではなく、6 群とも平均的にみれば性格プロフィールは同じであるといえる。

さらに知能偏差値の平均値でみると、第 66 図のごとくで、第 4 群が知能偏差値 SS45 で低いのが目立つ。

つまり、個性的な問題が主なる中退群は知能において低いといえる。

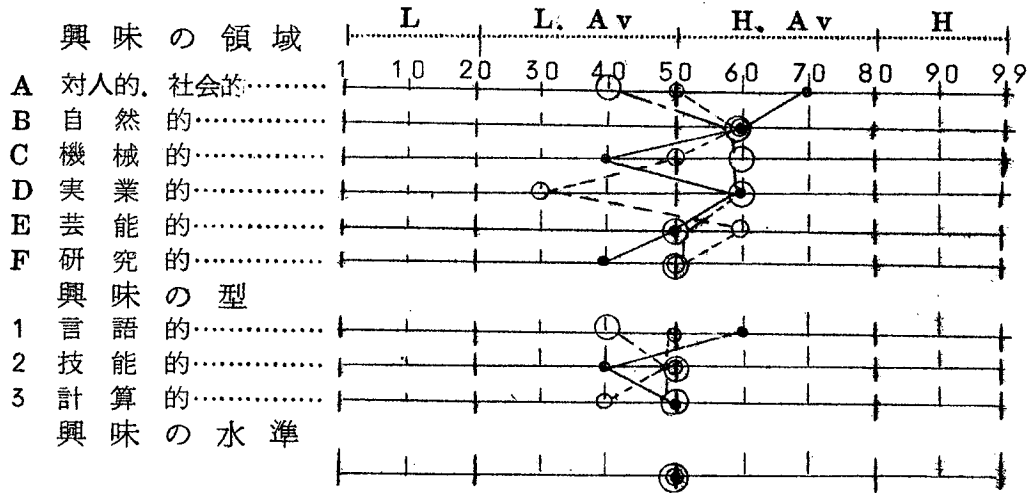
以上、中退理由の 6 群について、personal traits の各側面を検討してみたが、第 II 群のごとき、個性的な問題が前面にだされている中退の場合は、ある程度心理検査による中退予測が可能であるかもしれない。

しかし、第 II 群は全中退者数の約 19% であり、前述した通り、心理検査をもちいて、中退訓練生の personal traits をあきらかにし、中退訓練生全般を予測することは直接的には困難であるといえる。

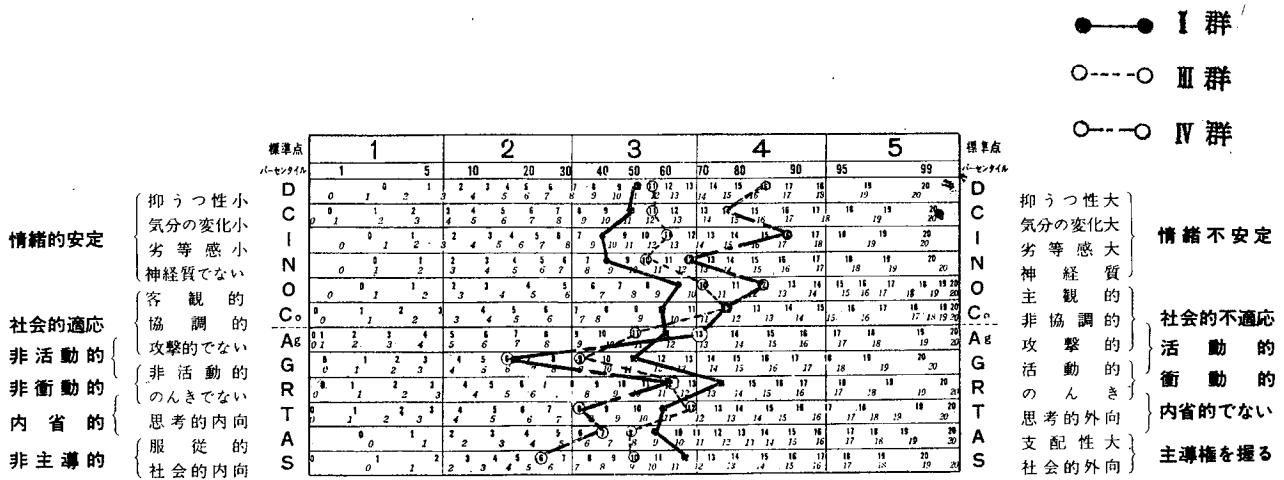


● I 群 ○ III 群 ○ IV 群

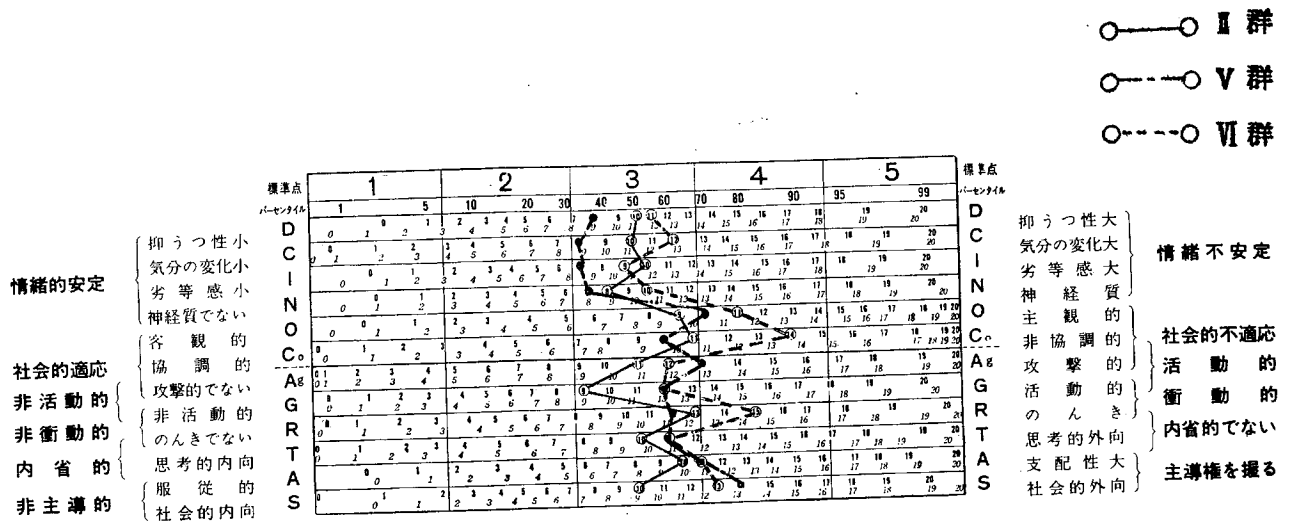
第 62 図 (a) 中退理由群ごとの職業興味プロフィール



● II群 ○ V群 ○ VII群
 第63図 中退理由群ごとの職業興味プロフィール

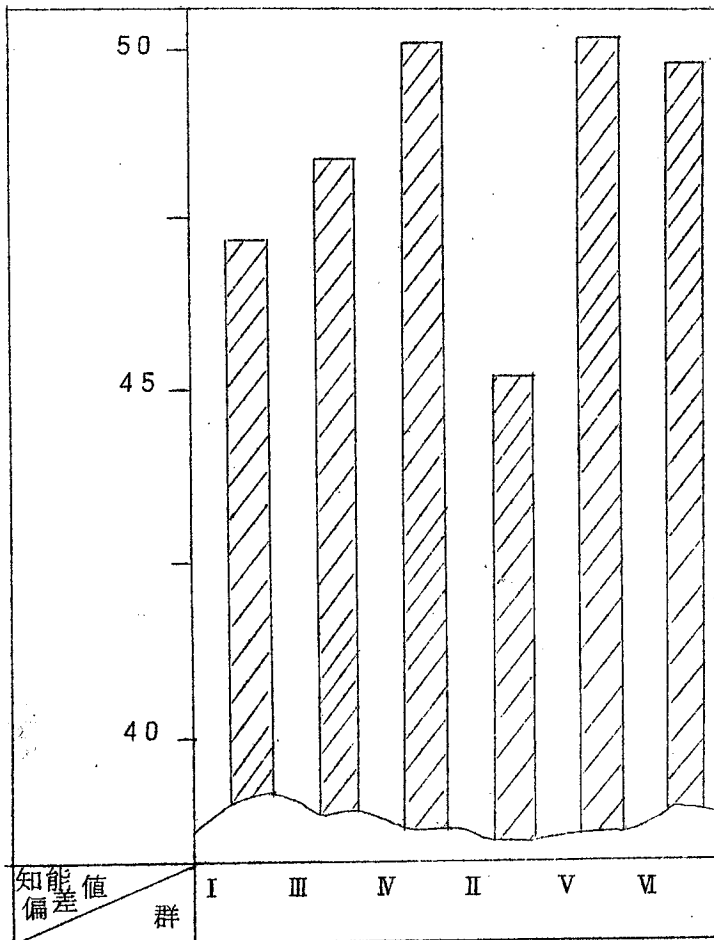


第64図 中退理由群ごとの性格プロフィール (a)



第65図 中退理由群ごとの性格プロフィール (b)

第66図 中退理由群ごとの知能偏差値



第 6 節 ま と め

1) 職業興味検査, 性格検査, 知能検査, 職業適性検査を組合せて **personal traits** を検査した結果から, 一般に, 中退訓練生を予測することは現状の総高訓においてはできない。^{11) 12) 13)}

ただし, 第 II 群<個人的理由が主な中退率>の予測はかなり妥当性がある。

2) しかし, あえて言うとするれば, 中退訓練生群と修了訓練生群との間には各 **personal traits** において次のような差異が若干ではあるがうかがわれる。

① 職業興味“機械的領域”で, 中退訓練生群は修了訓練生群より低い値を示すものが多い。

② 中退訓練生群には B 型性格の者が若干多い。

つまり, 情緒不安定, 社会的不適応, 活動的, 外向的な人でパーソナリティの不均衡が外にあらわれる人で, 反社会的行動がしやすいとも中退者がやや多いといえる。

③ 知能偏差値が高い者よりも低い者の方が中退する比率がやや大きい。

④ **personal traits** 上ではほとんど同じ問題点をもっているも, 中退する訓練生と修了する訓練生が存在する。

-
- 11) Survey Research Center (Bachman, J. G. et al) 1969.
Youth in transition : Volume 1.
Blue print for a longitudinal study of adolescent boys. (Ann Arbor, Michigan : Institute for Social Research)
- 12) Survey Research Center (Bachman, J. G) 1970
Youth in transition : Volume 2.
The impact of family background and intelligence on Tenth-Grade boys.
(Ann Arbor : Inst. Soc. Res)
- 13) 村瀬孝雄: 青年期の人格形成の理論的問題 (教育心理学研究 20-4 1972. 12)